



CLT 加工施設 (山佐木材株)



2×4 工法部材加工施設 (株)さつま FW)



大型加工施設の稼働 (外山木材株)



志布志港からの木材輸出



1 大隅地域について

大隅地域は、鹿児島県の東部に位置する大隅半島の最南部(本土最南端の佐多岬)から北部にかけて位置し、曾於地区(曾於市・志布志市・大崎町)、肝属地区(鹿屋市・垂水市・東串良町・錦江町・南大隅町・肝付町)の4市5町で構成されています。当地域の総面

積21万haのうち、森林は13万ha(63%)で、民有林84千ha、国有林49千haとなっています。当地域は、県内でも早くからスギを主体に人工林化が進められ、民有林の人工林率60%(5万ha)は、県平均(46%)を上回るなど、豊富な人工林資源を有しています。

また、当地域の素材生産量は、増加傾向で推移しており、県内の素材生産量(112万立方メートル)の4割に相当

新たな木材需要に対応した 効率的な木材生産・流通と 一貫作業による再造林の推進

鹿児島県大隅地域の取組

林業成長産業化地域創出モデル事業⑨

2 新たな木材需要の創出

する48万立方メートルとなっています。

① CLT

新たな建築資材として注目されるCLTについて、当地域の山佐木材株では、平成26・29年度に加工施設の整備を行うとともに、26年6月に全国2番目となるCLTのJAS認定を取得し、

生産増大や販路拡大に努めています。
② 枠組壁工法(2×4工法) 部材
国産材を活用した枠組壁工法(2×4工法)の住宅部材について、(株)さつまファインウッドでは、平成26年度に当地域に隣接する霧島市に加工施設を整備し、県内外の製材工場から一次製品を受け入れ、県外の大手住宅メーカー等に製品を出荷しています。

また、宮崎県都城市に拠点を置く外山木材株が当地域において、2×4工法部材の一次製品等の大型加工施設を整備し、平成31年1月から本格稼働しています。

③ 木材輸出

当地域の北東部に位置し、南九州地域における国際物流拠点港として発展している志布志港から中国、台湾等の東アジア地域へスギ丸太等が輸出されています。

平成29年度の志布志港からの木材輸出量は、30万立方メートルを超え(全国一位)、そのうち、県産材は11万立方メートルとなっています。県産材輸出量の9割を占める中国においては、これまで梱包材や型枠材などの低質の丸太が中心でありましたが、木構造設計規範が改定され、中国の木造建築に使用できる構造材の樹種に日本産のスギ・ヒノキ等が加えられたことから、今後は、良質の丸太や製材品の輸出の増加が期待されています。

大隅地域の構想における取組概要



3 林業成長産業化の実現に向けた取組

当地域では、次の5つの重点プロジェクトを設定し、森林組合や素材生産業者をはじめ、製材加工事業者、木材市場、苗木供給者など、地域構想の参加者が一体となり、川上から川下までの取組を集中的に実施しています。

(1) 施業集約化推進プロジェクト

森林施業の集約化を促進するため、ICT技術を活用した森林情報の取得や市町と林業事業者間の森林情報の共有化を図るとともに、モデル地区を設定し、森林の管理や所有を林業事業者へ引き継ぐ効果的な方策の検討などを行う。

(2) 低コスト素材生産推進プロジェクト

木材生産の低コスト化を図るため、林業専用道など路網の整備や高性能林業機械の導入を推進するとともに、現場マネジメントに主眼をおいた実践研修等により、高い生産性を実現する「高効率作業班」の養成等を行い、林業事業体の生産性の向上を図る。

(3) 原木流通効率化推進プロジェクト

原木流通の効率化を図るため、木材の集荷拠点となる中間土場について、効果的な設置位置や規模等の判断方法や流通コストの削減効果など取りまとめた「中間土場設置指針」を作成するとともに、素材生産者や木材需要者等によるコンソーシアム方式で行う原木安定供給協定の締結と実践的な取組を

促進する。

(4) 木材需要創出プロジェクト

木材の需要拡大を図るため、新たな建築資材として期待されるCLTや2×4工法部材、良質丸太や製材品等の木材輸出について、当地域における木材流通の現状や国内外の需要動向等を調査し、木材の需要拡大に向けた生産・販売方針等に係る「新需要拡大戦略」を策定するとともに、ICTを活用した新たな木材需要のサプライチェーンマネジメントを構築する。

(5) 再造林推進プロジェクト

再造林の推進を図るため、伐採・地植え・植栽の一貫作業による作業効率の向上の取組や下刈の省力化作業の検討等など、造林・保育コストの低減に向けた効果的な実施方法の普及・定着を促進するとともに、造林・保育に必要な労働力の確保・育成に向けた林業事業者間の連携や人材バンク制度の構築などを行う。

4 取組の推進体制

林業成長産業化の実現に向けては、参加する者が一体となり取り組む必要があることから、地域の市町や林業事業者等で構成する大隅流域森林・林業活性化センター内に「林業成長産業化推進部会」を新たに設置し、地域構想参加者の意見を十分に反映させながら、モデル事業に関する推進部会やプロジェクト会議、各種研修等を開催し、関係機関・団体と協力を図りながら、計画的に取り組んでいます。

5 おわりに

当地域は、充実した人工林資源を背景に、CLTや2×4工法部材の生産、日本一の木材輸出など、新たな需要が創出され、今後も木材需要の拡大が期待されています。



林業成長産業化推進部会



プロジェクト会議(再造林推進プロジェクト)

このような動きを好機と捉え、関係者が連携を強化し、原木の安定供給や確実な再造林による資源の循環利用の促進に努め、大隅地域の林業の成長産業化を実現し、持続的な雇用の創出と林業産出額の増大を図ってまいります。